

オール十勝で危機感共有



「地域・暮らし崩壊」

「雇用失う」

札幌から参加した高橋組合長（右）はじめ生産者の皆さん

TPP参加反対集会 4千人の大合唱

「地域を守れ!」。11月28日に十勝農協連家畜共進会場（アグリアリーナ）で開かれた環太平洋連携協定（TPP）の反対集会は、当初3千人規模の予定でしたが、関連産業や労働組合などからの参加の申し出があり、農業者だけではなく商工業者や労働・消費者団体の関係者約4千人が「TPPから十勝を守ろう」と書かれた鉢巻姿で会場を埋め尽くしました。

当農協からは74名が参加し、「TPPには断固反対」と氣勢をあげました。会場には「わが国の食料を守れ」などと書かれたプラカードやのぼりが掲げられ、十勝地区農協組合長の有塚利宣会長が「TPPはオール十勝として大変な事態。突如として大きな津波が押し寄せ、経済も産業もいっぺんに押し流されてしまうようなも

の。何としても阻止を」と挨拶し、全十勝地区農民連盟の山田富士雄委員長は「農業者だけでなく、地域の2次・3次産業の労働者も職を失う。こんなことがあっていいのか」と強調しました。

意見表明では、竹林隆十勝総合振興局長、米沢則寿帯広市長、高橋正男十勝町村会長、高橋勝垣帯広商工会議所会頭らがそれぞれTPPに「断固反対」する姿勢をアピールし、十勝全体の思いを国に届ける決意を示しました。

最後に十勝地区農協青年部協議会の黒田栄継会長、十勝地区JAW女性協議会の河田さえ子会長の音頭で「ガンバロウ」を三唱しました。

十勝総合振興局の試算によると、TPPに参加した場合、農業算出額で1382億円、乳業・精糖工場など関連産業で1298億円、地域経済等で2357億円、これらを合わせて十勝全体で5037億円の損失が生まれ、4万人が失職するとされています。

